

令和元年 春の課題作文・読書感想文

～塾長講評～

再来年から大学入試でセンター試験が廃止され新たに大学入学共通テストが行われます。その試行調査で出題された問題ではマルチデータ処理能力が今まで以上に求められていきました。それを踏まえて今回から中学生対象の課題作文には資料やグラフの読み取りを加えています。一方で、小学生は学年によってはグラフの読み取りを履修していないことを考慮して読書感想文コンテストに形態を切り替えて実施することにしました。

文章で物事を表現する力は本当に大切です。その力を向上させることはまず書くこと、その上で一旦書き上げた文章の修正をかけることが有効です。皆さんから提出された作文や感想文は講師が添削して返却しますので、アドバイスを参考に書き直してみるといいでしょう。それに加えて他の人の作品を読んで自分自身の感性も鍛えていくて欲しいと思います。ぜひ今回紹介する受賞作品を読んでみてください。

まず、小学部金賞受賞作品についてです。「電池が切れるまで」という小児がんの子どもの闘病記を読んだ感想文でした。自分自身の喘息との闘病エピソードを交えて命の大切さを学んだことが

力強く伝わる作品で、筆者が読者に伝えようとしていることを想像している部分も素晴らしかったと思います。

続けて二つの中学部金賞受賞作品についてです。一つ目の作品ではインスタ映えと食品ロスを結合させて問題提起が行われていました。そして、最後の「『いただきます』と『ごちそうさま』は何の為にあるのか」というフレーズが印象的です。選考委員からも「全体の完成度が高い」と評価されました。もう一つの作品では「円食堂」というテレビ番組を取り上げて消費者と生産者の意識ギャップに焦点を当てて論を展開していました。途中で敢えて短めの文を何度も繰り返すことで、読み手の心に言葉がストレートに届く効果をもたらしたと感じています。こちらも満場一致で選出されました。

いずれの受賞作品も本の内容や課題テーマを自分自身のことに置き換えて見つめ、考え方としている姿勢が強く感じられます。ぜひ公開されている優秀作品の視点やフレーズの中で共感できる部分を探してください。そして、それを自分の心に留めておくようにしてください。そうやって次に作文に取り組む際に、今以上に豊富な視点や語彙で表現できるように目指していって欲しいと思します。